

自信も稍々削がるゝの氣味ありたり。

選手一同中食をなし早や戦の準備は整へり、かくして兩軍の拍手裏に意氣と意氣との激しき争は始まれり。我軍中堅組は敵の中堅組に當り互に美技を演じつゝ力戦せしも效なく(六二四)のスコアにて敗る。續く副將組は一商副將と接戦せしも此れ又效なく敵をして名を成さしめたり。

此の如くしてゲームは次第に進行し遂に一商、大將組と我が大將組との激しき一騎打に及べり。互に追ひつ追はれつ敵一商の強サークルに我の強きストロークを以てし、持久策を廻らせしも我軍兵糧絶に恨を呑んで一商コートを退く。

本校オーダー

京一商オーダー

(毛利)四	(増尾)六
(百々植田)三	(井岡澤)六
(森知田)四	(辻坂田)六

愛知醫大主催

選手一同中食をなし早や戦の準備は整へり、かくして兩軍の拍手裏に意氣と意氣との激しき争は始まれり。我軍中堅組は敵の中堅組に當り互に美技を演じつゝ力

戰績左の如し  
十月月中旬我部(百々、植田)組は部長代理、柳井先生に率ゐられて數ヶ月の手腕を發揮すべく中京の地に向へり。

#### 戦績左の如し

第一回戦、(本校)

(岐中)

(百々植田)三

(加藤上田)六

此の如くして我が副將組は、敵岐中の大將組を度々窮地に落せしも、敵は巧妙に血路を開き我に對するに獨特のボレーを以て攻撃せしかば、遂に吾軍奮戦の效なく刀折れ矢盡きて斃る。諸君の期待に反きしを謝す。

彦根高商主催

近府縣中等學校硬式庭球大會參加記

時は十一月一日、吾が部は高商の招待を受けて愈々當校主催の大會に參加すべく、碎心粉骨の勞を物ともせず毎日緊張して猛練習を重ね、敗辱の汚名を雪がんと堅く決したり。

第一回戦は近江湖西の勇今津中學と當る。

吾軍最初より敵をして一步も出しませ六二〇のスコア

一にて敵を難なく打敗り幸にして第一回戦は悠々勝を占むるに到れり。

第二回戦、吾軍の常に強敵として居た八幡商業と戦を交へるに至れり、吾軍(知田、山崎組)は最初敵の猛サープを巧みに打返し美技を演じて敵に肉迫せり、此の期を見たる敵はネットプレーに全力を注ぎ我に對抗せり此くして接戦數十合せしも、我に失策多くして遂に敵をして本大會に覇を稱へしめたり。

其時のスコアー (本校三二八商六)

縣下中等學校硬式庭球大會參加の記

時は大正十四年十一月八日、好球兒の血を湧し肉を躍らすべき庭球縣下大會は膳所中學校コートにて開催せられたり。此れ迄の敗慘の汚名を雪がすんば、死すとも歸らじと心に堅く誓ひたる我部六名の選手は部長に引率せられ、彦根驛頭歡呼の聲に送られて、意氣や高く、腕や冴々、強敵我が前にありやの元氣もて金龜丘を後にせり。

第一回戦不戦一勝。

第二回戦彦根商業と當りしも敵棄權せしため又不戦にて一勝するを得たり。

本年度も縣下大會を以て名残多き終を告げました。同頤すれば春尙淺き四月から秋も暮んとする十一月に至るまで猛練習の甲斐なく慘敗を以て一貫し幾度校友諸兄の期待に反き、熱誠なる後援に裏切つたでしよう吾等選手も熱心に練習しました。苦しい研究も積みましたあらゆる犠牲も拂ひました。併し天は吾等をしひたげ、慘敗を以て之に報ひ來たのです、寛大なる諸兄よ何卒我等の胸中を察し御容赦下さい。

皇孫御降誕祝賀、コート開き之記

十一月二十八日、出場者多きため各年級全部二回戦まで行ふ。

十二月八日、皇孫御降誕を祝し奉るため全校生徒は彦根兩縣社に參拜し、午前十時歸校直ちに祝賀會を催せり。

### 選手硬式ゲーム

(知田) 六一五 (植田) 百々

### 各年級優勝組。

五年級(辻、淺野)

四年級(堀江、榎原)

三年級(青柳、岡庭)

二年級(中川、前川)

一年級(西堀、長谷川)

### 一、二年決勝戦

(中川、前川) 三一一 (西堀、長谷川)

### 三、四年決勝戦

(辻、淺野) 三一一 (青柳、岡庭)

(辻、淺野) 三一一 (堀江、榎原)

### 午後三時半、日出度本大會を終へたり。

## 陸上競技部々報

圓盤投 小玉、川崎

小玉 悠々とベストファイブの中に入り、決勝にて惜しくも第四位となつた。

槍投 川崎、奥村

砲丸投 西澤、橋本

走高飛 大谷、南條

走巾飛 小玉、橋本

ホース、ジャムブ 小玉、橋本

槍投 川崎

旅館に着いた。その夜は皆よく眠つた。

翌る二十三日の朝少し雨が降つたが、直に止んだ。我等は非常に元氣で八高グランドに行つた。八時半から選手入場式及び優勝旗返還式があり、参加校は實に十四校の多數に上つた。式後直に競技は始つた。その日の我校メンバーは次の様である。

槍投 川崎

圓盤投 小玉

走高飛 南條

走巾飛 大谷

百米 北村(秀)

四百米 澤井

千五百米 北村(光)

第一着で悠々と第一豫選にバスし、リレーの第一豫選で非常に疲勞して居たが、第二豫選も第二着でバスし、決勝戦に第三着にて入り、貴重なる一點を得た。

千五百米 北村(光)

第一豫選に第二着を占めたが、惜しくも決勝戦で敗れた。

我等は九月二十二日に、午後一時の上り列車で名古屋に向ひ、着名するや直に電車にて八高へ行つた。さうして八高グランドでウォーミングアップをしてから全國中等學校陸上競技大會に參加する事となつた。

我等は九月二十二日に、午後一時の上り列車で名古屋に向ひ、着名するや直に電車にて八高へ行つた。さうして八高グランドでウォーミングアップをしてから

我等は四月上旬より數名の新選手を加へ、日々練習を續け、五月十七日大津に於て開かるべき京津日報社主催縣下中等學校陸上競技大會に參加せんとせしも、止むを得ざる事情の爲に棄權した。

### 彦根高商主催近府縣中等學校陸上競技大會

尙練習を續け、五月三十一日に開催せられる彦根高商主催近府縣中等學校陸上競技大會に參加する事となつた。

その日は朝から晴天で、大會は午前八時から開かれた選手入場式及び優勝盃返還式後、直にファイルド、トラック共に競技は始つた。この日の我校メンバーは次の一如し。

八百米リレー 北村(光)、尾本(市)、尾本(信)、澤井

八百米リレー 北村(光)、尾本(市)、尾本(信)、澤井

第一豫選は第一着でバスし、第二豫選に途中でバトンを落したが、澤井二人を抜き、見事に第二着となり、觀衆は皆舌を卷いて驚いた。さうして此の日の華である、リレー決勝戦に第三着を以て入り又一點を得た。

我等はベストを盡して戦つたが、終に龍野中學の優勝に歸した。併し、幸に八高陸上競技部主將富永君が本校の先輩であつたから、我等の爲に色々と便宜を計り又我等の意氣を鼓舞して下さつたので、我等は非常な元氣を以て試合に臨み、本年度に於ける我部の最初の得點である、二點を獲得する事が出來たのであつた。

#### 岐商主催近縣中等學校陸上競技大會

八高主催の大會に参加し、相當自信を得た我等は尙練習を續け、十月十八日岐商主催の近縣中等學校陸上競技大會に參加した。我校メンバーは次の様である。

百米 北村(秀)

四百米 澤井

五百米 澤井

六百米 澤井

七百米 澤井

八百米 澤井

九百米 澤井

一千五百米 北村(秀)

槍投 川崎  
投げる度に延びて行き、ベストフォアー中に入り第二位で、二點を得た。レコード三九米九二。  
走高飛 大谷

我等は此所に三點を得、六時の下り列車にて歸彥した栗太体育研究會主催縣下中等學校陸上競技大會運動會以前の猛練習により、鍛上げた腕を以て、十一月八日栗太郡設グランドで開催された縣下大會に參加した。我等は部長松永先生に引率され、今年こそ會稽の恥を雪がんとの意氣を以て草津に向つた。競技は九時半より開かれた我校メンバーは次の様である。

百米 北村(秀)、澤井

二百米 澤井(秀)、澤井

三百米 澤井

四百米 澤井

五百米 澤井

六百米 澤井

七百米 澤井

八百米 澤井

九百米 澤井

一千五百米 澤井

豫選には第一着でゴールに入り、而もタイムは四十八秒フラットで同大會のレコードを破り、尙縣下中等學校四百米レコードホルダーの名譽を得た。決勝にも第一着で、三點を得た。

## 文庫部々報

その昔記念文庫に關する記事ありたるや否やは知らず、最近の校友會誌に於ては唯卷末の會計報告にて少からざる豫算額を有するその名の記載せらるゝばかりなり。而かもかく校友會全員より疎せられたる本文庫の由來を知る者さては殆ど無きを甚だ遺憾とする。依て先づ此處にその由來を説明せん。

明治四十三年十月八日 皇太子殿下本校に御臺臨あらせられ、親しく本校生徒並びにその成績品を御臺覽遊ばされ、あまつさへその成績品の一部を御持歸り遊ばさる。此れ洵に本校の光榮と謂ふべし。此の光榮を永久に記念せんが爲めに行啓記念文庫創設の計畫を立て、同四十四年度より校友會事業として費用積立に從事し、年々之れが計上をなす。かくて大正三年に及び九月一日をトして開館し、滋賀縣立彦根中學校行啓記念文庫と稱す。これ本文庫の創始なり。

その後年々其の内容充實に努め、大正六年以來豫算増額をなし、且之に加ふるに數氏の寄附金を以てし、益々その規模を擴大して遂に今日に至れるものなり。然して今やその圖書千七百七十部二千八百三十冊の多きに達し、此處に漸く認められんとするに至る。此れ本文庫の甚だ喜ぶべきことにして今後とも益々生徒並びに先生方の利用せられんことを望む。

次に本年度の状況を述べ、聊かにても諸彦の了解の資とせん。

今年は例年に比して校友會理事の決定遅れ、ために文庫開館の時期も亦之れに従つて遅くなり、四月二十日に至りて漸く開館せり。而して日曜、祭日、休日は勿論、試験中及びその前數日、職員會議の催さるゝ日修學旅行及び應援團の全校生徒召集等の障害ありしため、理事は出來得る限り之れが開館に盡力せしも、第一學期に於ては四月中に開館七日、五月に入りて十日、六月に八日、七月に七日の極めて小數日に過ぎず之れに反して開館の障害となりし日數實に三十日の多きに上れり。勿論日曜、祭日等は此限りにあらず。かかる景況なりしため閲覽者に迷惑を掛けしこと多く、

従つて閲覽者數甚だ振はず第一學期中特別借覽者僅かに三百九十五人の小數に止まれり。

第二學期に入りては應援團の解散等ありて割合に障害少く、九月中に開館十六日、十月に十二日、十一月に十四日、十二月に五日の多きに上れるは實に喜ばしき次第なり、而かも十二月は別として各月共九十人以上上の閲覽者あり、第二學期中の特別借覽者四百七十餘の多きに達せり。而かも此の間に於て上級理事は課外教授受講のため殆んど暇なきに拘らず、よくその職務に從事してかゝる好成績を得たるは實に欣喜措く能はざる次第なり。これがため部長もその對策に盡力せられ、補缺理事を定めて十一月二十四日新舊兩理事を校長室に集めて校友會長より解任及び任命の式あり。これより先特別借覽規定の改正等ありて、本年度は大いに事務錯綜せしが、漸くその難關を切り抜けて無事そとの任務を盡し得たるは實に之れ部長の指導よろしきを得たると理事各員の大なる努力によるものなり。

次に本文庫の組織を述ぶれば

### 一、設備（大正十四年現在）

#### 書戸棚 十本

### 辭書用書棚 二個

### 閲覽用机腰掛 六組

### 事務用机、椅子 机一脚椅子二脚

### 時計 一個

### 二、整理

本文庫の藏書は凡て書棚に納む。

別に臺帳を備へて藏書を次の十部に分類す。

大正十四年十二月現在に於ける藏書數左の如し。

部 門	部 數	冊 數
教訓部	二二一	三八一
文學部	二六一	五六九
地理歴史部	三三五	七二四
英書部	二七九	三三二
博物部	八七	一〇〇
詩歌部	六七	九三
數物化學部	一七八	一七〇
稗史小說部	一四八	五九
雜書部	二〇〇	二二三
合計	一七六六	二八三三

此外次の月刊雑誌を購入して閲覽者の便に供す。

受驗と學生 考へ方 XY 中等英語 初等英

語 運動界 中學世界 教育畫報 科學畫報

而して一週一日の整理日を設け當日は借出をなさず。理事は一日に二人宛當番となりて文庫に詰め整理日には全員出勤して圖書の整理をなす。但し毎週火曜は職員會議あるため止むを得ず休館す。

### 三、役員

部長 佐竹教諭 理事 舊理事 五年 青山正 次(金)

中村武司(木) 家森實(水)

四年 吉田清一郎(火) 田中良三(土)

同補三年 岡庭雅 田中良三(土)

居長英三郎 徹(月)

新理事四年 吉田清一郎(火) 田中良三(土)

本山徹(月)

宇治原 信三( )  
西崎 吉藏( )

三年 岡庭 寛( )

居長 英三郎( )  
西堀 寛( )

大久保 真順( )

括弧内はその理事の當番曜日を示す。但し舊理事の當番法は舊制によるものなり。

#### 四、規則 規定

##### 規則

一、本文庫ハ内外古今ノ圖書ヲ本校職員及ビ生徒

ノ閲覽ニ供スルヲ以テ目的トス

一、圖書閲覽ハ日曜、祭日、休日ヲ除ク外毎日放

課後二時間以内トス

一、圖書ヲ閲覽セントスルモノハ其書名番號ヲ記

シ圖書掛ニ差出シ之ヲ借受ケ返還ノ時ハ之ヲ

圖書係ニ渡スペシ、但シ同時ニ三種以上借受

クベカラズ

一、圖書閲覽中ハ靜肅ヲ旨トシ音讀、談話其他喧

噪ノ行爲アルベカラズ

本年度中の圖書に關する主なる變遷次の如し

一、大正十四年九月 本校自習室備付圖書詳解漢和

大辭典二十五部辭林二十二部携帶英和辭典十四部齊藤

中辭典五部井上大辭典五部武信和英大辭典十部井上和

英大辭典五部を托保す

二、同年十二月八日 同月六日皇孫内親王殿下御降

誕祝賀記念として本校教諭上松元次郎氏より盆栽附鉢

植花卉一冊の寄贈を受く。

左に本年度中になせし室外特別借閱人延數を掲げて

一般狀況の推知に便せしめん。

一、圖書ニ書入レ、切り抜キ其他故意ニ圖書ヲ破  
損シタル時ハ之ヲ辨償セシム

特別借閱規定(大正十四年十月改正)

一、閲覽者ハ開館日ニ於テ庫外ニ特別借閱スルコ

トヲ得

一、庫外借閱者ハ一定ノ用紙ニ要件ヲ記入シ係員

ニ提出シ其貸シ出シヲ受クベシ

一、借閱書ハ一回一冊又ハ一部ヲ越スルコトヲ得

ズ、又他人ニ轉貸スルコトヲ許サズ

夏季特別貸出

冬季特別貸出

四月 計 一〇 五月 計 八〇

五月 計 一六 六月 計 二七

五月 計 二三 七月 計 一〇

五月 計 五六 六月 計 五六

五月 計 一〇 七月 計 六五

四、三、二學年の最も讀書熱の盛なるは、その中樞  
學年たる彼等の智識慾旺盛にして而かも割合に閑暇多  
きためならん。而して一學年の數の極めて少きは未だ  
文庫の存否さへ知らざる者多きためならん。

大體以上の記録によりてその狀態を知り得べし。さ

れば之れ以上詳細に渡るはあまりにくゞしければ  
これ位にて筆を止めおく。終りに當つて一言述べん  
に、本年は事務多端のため厳しく督促すること少かり  
し爲にもあらんも、返済期の無秩序なりしは甚だ遺憾  
なり。今少し各人よく規定を遵守せられんことを望む  
且かくまで繁に來りし此の文庫部に對して本年度に限  
り例年より貳拾圓の豫算額減少は甚だ遺憾の至りなり  
願はくは來年度より再び舊額に復して本文庫をして一  
層繁榮ならしめ大いに校友會のため利用せられんこと  
を。

(青山正次記)

## 雜錄

### 本校日誌鈔

○一月

九日(金)柳井先生第二學年學級監に任命

十日(土)午前五時半武道寒稽古始めの式を行ふ

十六日(金)本日鳥居本字原千本村字正法寺附近の山

にて兎狩を行ふ、六時半出發

○三月

五日(木)本日より自働時報機にて授業時間を報する

二十三日(月)第五學年學年試験を始む

二十四日(火)第四學年一部の學年試験終了

二十八日(土)第四學年有志同時に試験を行ふ

本日より學藝品展覽會開催

二十九日(月)武道寒稽古終了式を行ふ

三十日(火)午前九時四十分より岡山縣知事大海原重

義氏の講話あり

二十四日(土)第四學年修學旅行隊出發

年四年有志者に東洋史に關する講話あり

十六日(月)同試験終了

午後零時半より武道道場に於て正副級長、察

長、校友會理事選手、應援團幹部等の慰勞會

を開き職員全部列席

二十一日(水)八時三十分より紀元節拜賀式を舉行

十二日(木)本日より第三學期小試験始まる

十六日(月)同試験終了

を行ふ式後各教室にて正副級長及校友會理事

選舉午後〇時半より新入學生の入學式を行ふ

九日(木)新舊生徒の對面式を行ふ 縣下中等學校野

球大會優勝式納め式を行ふ 級長副級長決定

十日(金)午前八時より追試験及新入生の編入試験を

行ふ級副長任命

十五日(水)第二時限杉江先生を見送る

十六日(木)大日本獎學後援會の講話あり

二十日(月)宇曾川堤へ野外遠足

一日(金)本日創立紀念式舉行後水上運動會を行ふ

二日(土)本日慰勞休暇

四日(月)歩兵少佐寺田潔先生着任

五日(火)寺田先生の紹介式を行ふ

六日(木)體格検査

二十八日(土)午前八時より体格検査及び口頭試問を行ふ

二十九日(火)午後二時より判定會あり

受験者二百三十一名の中 合格者百二十六名

○四月

八日(水)始業式 第四學年以下の學力操行優等賞皆

勤賞及精勤賞を授與す同日鈴木先生の紹介式

十四日(木)第二學年旅行隊出發

第一學年旅行隊出發

十五日(金)皇太子殿下本日午後五時八分彦根驛御通

過につき生徒一同奉迎送をなす

十八日(月)昨夜七時二十分着の汽車にて第四學年旅

行隊歸校

本日午前十一時十一分着の汽車にて第五學年旅

行隊歸校

第四學年旅行者慰勞休暇

十九日(火)第五學年旅行者慰勞休暇

トラホーム結膜炎患者調べ トラホーム十

四名 結膜炎十二名

二十日(水)職員の身體検査を行ふ

皇太子殿下本日午前七時五十三分彦根驛御通

過につき生徒一同奉迎送をなす寺田少佐の講

話あり

二十一日(金)本日第六限より藤田校醫の渡歐土産話

あり

二十二日(土)角力部選手午後三時四十二分發の汽車

にて名古屋に於ける東海角力大會に赴く

○六月

一日(月)

但馬地方震災義捐金を各學級にて取り纏む

伊藤先生出發の爲第六限職員生徒彦根驛まで見送る

三日(水)晝食後伊藤賢蔵以下十九名汽車通學生取締りを任す

八日(月)小試験時間割發表

十日(水)時の記念日

十三日(土)第一學期小試験開始

十八日(木)小試験終了

二十六日(金)學校長安河内先生二十三日付願により

六日(土)小試験時間割發表

八日(月)但馬地方震災義捐金を各學級にて取り纏む

十日(水)時の記念日

十三日(土)第一學期小試験開始

十八日(木)小試験終了

二十六日(金)學校長安河内先生二十三日付願により

二十二日(水)放課後各運動部遠征者選手並びに應援

團幹部一同を講堂に集め各運動部長列席の上

學校長の訓辭ありたり 職員一同教員室に參

集、水口中学より本校首席教諭として來任せ

られたる西保先生の紹介ありたり

二十三日(木)朝禮の際西教諭の就任式を舉ぐ

野球部選手桃井教諭引率午後二時彦根發京津

野球大會出場の爲京都に向ふ

一二年生徒水泳練習本日を以て終了

二十四日(金)大掃除後第一學期終業式舉行同時に東

林、若山兩教諭の告別式を舉行式後生徒は教

室に入り夏季休暇中の心得につき訓話あり。

學校手帳交附の上退出

一日(火)午前八時十分集合。點檢。朝禮講堂に於て

始業式。午前九時より午前十時に至る間校舍

内外大掃除。午前十時より十時半迄學級監訓

話。

二日(水)朝禮の際學校長より左の件々訓辭あり、

1 昨日の大掃除の成績佳良なりしを喜ぶ。

二十一日(火)前日同様父兄と學級監懇談す

2 各部選手の勞を多とし今一層一般生徒の運動を盛ならしむる事を望む。本朝より朝禮の號令は生徒にかけしむ

三日(木)朝禮の際左の注意あり、一異装の際に於ける届出許可の手續きについての指示

二、途中帽子の日覆のなきものゲートル離脱せる者一二あるを認むるは甚だ殘念なり將來を誠む。

五日(土)當地青年團相撲競技の爲本校土俵の貸與を許す。

七日(月)生徒監よりの注意 一、雑誌原稿は九月十五日を締切とす、二、用紙の殘部併に書損じをも納入すべし

九日(水)朝禮の際注意 一、途中敬禮の方法 自轉車上にての敬禮は舉手の事。二、毎時間教室内敷壇上に先生の着と共に敬禮終りたる時を限界とし以後の入場者を遅刻とす。

十日(木)朝禮の際衛生係よりの訓辭。コレラ病流行に關し縣よりの通牒もあり此の際特に衛生に注意し若し疑はしき不快等の時は醫師の診察

を受くべし。放課後講堂に應援團幹部を集め指導員生徒監列席の上學校長より訓示せらるる屆出許可の手續きについての指示

十一日(金)朝禮の際學校長より應援に關し一般生徒に訓示せらる。放課後應援團幹部缺員補充の爲協議す學級監併に指導員列席す。

十二日(土)本日放課後應援團幹部の希望により五年生全部の集合を許可す。學級監指導委員併に寺田監督列席す。明後十四日より五十分授業

を受くべし。

十四日(月)朝禮の際本週間に限り特に四十分課業

す。

十五日(火)コレラ病流行地通過生徒取らべの上校醫の診察を受けしむ。

十九日(土)朝禮の際左の件通達す。一、成績考查に關する新規定。控席へ書籍又は武道道具等を放置すべからず。第四時限後各學級監列席の上學校長より級長の心得べき事について訓告あり。

二十二日(火)午後招魂社參拜歸校後學校長の訓話あり。

二十四日(木)朝禮の際寺田訓練部顧問より芹橋六丁目に流行病の疑ある患者發生の由衛生に注意

すべく 一、芹川に近寄らざる事、二、生物を飲食すべからざること、三、蠅の退治に注意すべき事。第五時限後運動會委員會を開く。

二十五日(金)第六時限より運動會委員會を開く。

二十六日(土)朝禮の際左の件に通達 一、来る二十八日より上着冬服帽子の日覆を取去る事。

二十八日(月)午前中四時間課業とし午後佐和山神社參拜の筈なりしも降雨の爲自由參拜として解散。

二十八日(月)午後一時前後より課外志望生の父兄參集。

○十月

一日(木)本日第六時限に於て四五年生中課外希望生を講堂に集め學校長の訓辭あり。四五年學級監列席。

二日(金)學校長より朝禮及び朝體操について訓話あり。

三日(土)本日より運動場に於て朝禮を行ふ。

○十一月

卅一日(金)勅語奉讀式舉行。

二十六日(月)堀田先生の新任式を行ふ。

卅一日(土)午前七時四十分、職員拜賀式、午前八時生徒拜賀式。午前八時半運動會開會式、午後五時半終了。

二日(月)運動會後片附け掃除をなし午前十時講堂にて學校長より講評、午前十時五十分終了。

三日(火)午前八時五十分準備整頓、四五年生執銃武裝一日遠足。三年以下正裝多賀行き。

五日(木)朝禮の際二年生高田外次郎に縣知事よりの褒狀授與傳達式舉行。第二時限より藤田校醫のトロホーム検診あり。

七日(土)本日野球部選手引率桃井先生甲子園へ出發九日(月)朝禮の際昨日甲子園に於ける野球部優勝並に栗田郡徒步部の成績(三等)に附いて學校長より訓示あり、カツブを收む。

十日(火)井伊公誕辰祭。午後一時より祭典舉行の通知あり。第六時限後生徒總代として各組級長參拜

十一日(水)午後始業前生徒一同を運動場に集合せしめ訓練部長より注意あり。

十二日(木)朝禮の際生徒監より注意  
(一) 本校生徒の乗馬を禁す。  
(二) 朝体操に就いての説明。

十三日(金)講堂に入場、行啓記念遙拜式舉行終了後

- 十二月  
一日(火)本日より午前八時卅分始業。  
二日(水)課外特別教授本日より當分休止。  
五日(土)學季試驗開始。  
六日(日)午後八時十分、皇孫内親王御降誕。  
八日(火)奉祝遙拜式舉行。午前九時五分千代神社及び天満兩縣社に參拜。十時四十五分歸校奉祝  
廿一日(月)野外演習二十一日に延期。  
廿二日(火)臨時休業。

廿三日(水)臨時休業。  
廿四日(木)終業式後訓話あり。學校手帳を交附し父兄會案内状を生徒を通して父兄に達す。  
廿五日(金)卅日迄課外特別教授を行ふ。

### 會計報告

#### 大正十三年度校友會費收入決算書

科 目 豫算額 決算額 差 額

前年繰越	一、七三、九五	一、七三、九五	○
新積入会金	二九、〇〇	三九、〇〇	一〇、〇〇
積立利子	五五、〇〇	四七、九〇	七、九〇
職員醵金	一五、〇〇	一六、九〇	一、九〇
生徒醵金	三、八八、〇〇	三、九六、二〇	八、二〇
計	五九〇、九五	六〇六三、四四	八、四九

#### 大正十三年度校友會費支出決算

科 目 豫算額 決算額 差 額

端艇新造費	一、六六、四五	一、八六、四五	二〇、〇〇
同本年度分	二〇〇、〇〇	二七〇、六〇	二九、三〇



に欣快とする所である。

大正十四年彦中應援團記錄  
 四年 中村武司 中良三 吉田清一郎  
 三年 本山徹 居長英三郎  
 岡庭雅

團長 岩崎由太郎  
 副團長 中山新次  
 同幹部 吉田諦成  
 大谷義雄 北村繁太郎  
 名畑榮一 藤村宗三郎  
 村田藤惣吉 家森實  
 林林英信  
 川澤五郎 三浦尚孝  
 崎四郎

△諸君の網膜に本號がうつるとき、諸君の筆の跡が、  
 世間へ出たのは内容の如何に係らず、嬉しい感じが  
 するだらう。

今この點に於て諸君が自己の作品中に不満足な點を  
 発見しても或る喜悅に化するだらう。諸君のかゝれ  
 たのは今より二ヶ月も前であるから今日の自分と比  
 較せられたら意中不満足な點もあらう。併し之は吾  
 人青年の頭脳が絶対に春草のやうに向上するシンボ  
 ルと見做して。小さいものながら文藝の野を一步一  
 歩と辿らうではないか。

△菲才淺學の身を以て編輯の任に選ばれて、私共が柄  
 にもない至難な業を試みようとしたのであつたが幸  
 に監督先生の絶大な御盡力と多數諸君のうら若い、  
 純眞な高鳴が充溢して居る作品を得て本號を發刊し  
 得た譯である。

殊に大正十四年といふ年は實に御目出度に満ちた年  
 であった。先には聖上陛下銀婚式あり後には東宮殿  
 下第一皇子御降誕あり。こゝに於て九重の佳運日を  
 追ふて加はつたのである。

△遲蒔きながら、本號を發刊することの出來たのは誠

### 編輯餘錄

理事名畑榮一

これに比例して諸君の熱心な筆の下に多くの原稿を  
 机上に積む事を得たが經費の都合で一部を掲載し得  
 なかつた事は誠に遺憾な事である。  
 △春たちかへつてもう、私共の中學生活は終局に近づ  
 いて居る。大分筆の末になつてからであるが……  
 校友會長を初めとして諸先生に御投稿を受けた事は  
 大いに感謝して居ります。  
 それから私共は忙しい心中に静かな無力な然かも  
 小さな自己と云ふものを見出して苦笑せねばならぬ  
 時になつて居る。  
 諸君、どうぞ一片耿々たる意氣を抱いて超人の意氣  
 を振ひ起してあらゆる方面に猛進して下さい  
 之を以て辭任の詞として擱筆する。

——編輯を終へんとして——

雜

錄

中村武司

に欣快とする所である。

二〇四

明治二十七年五月三十日内務省認可

大正十五年二月廿五日印刷

大正十五年三月一日發行

(非賣品)

發行所 滋賀縣立彦根中學校

代表者 滋賀縣立彦根中學校內  
足立熊雄

印刷者 滋賀縣彦根町字五番六二  
村下斯康

印刷所 滋賀縣彦根町字五番六二  
村下活版所

